

令和3年第2回取手市議会定例会議事日程（第3号）

令和3年6月14日（月）午前10時開議

日程第1 市政に関する一般質問

- ① 根岸裕美子 議員
- ② 鈴木 三男 議員
- ③ 小池 悦子 議員
- ④ 遠山智恵子 議員
- ⑤ 加増 充子 議員
- ⑥ 岩澤 信 議員
- ⑦ 関戸 勇 議員
- ⑧ 落合信太郎 議員

【根岸議員】

一般質問 配布資料

次のページから、
根岸議員の一般質問配布資料です。

新たな感染症とともに



保護者の皆様へ

本年度も教育と医療の連携は継続されることが決まり、4月27日に今年度第1回会議が開催されました。様々な立場から意見交換を行い、とても有意義な機会となりました。引き続き、子どもたちの健康を第一に考えて、対策を進めていきます。

さて、4月に入ってから富山でも変異株が検出され、感染者数も増加していますが、実は富山の子どもたちの感染者数は驚くほど少ない状況(10歳未満はわずか1.5%)です。子どもに感染が多いと言っている地域もある中で、なぜでしょうか…?

答えは見えています。富山は30代、40代の感染が他地域と比較して少ないのです。大人たちが家庭内に持ち込まないよう頑張っていることが表れていると感じます。データ解析をしてほっこりしました…この先も色々あるかもしれませんが、オール富山で協力して共に前に進んでいきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

富山市立学校 新型コロナウイルス感染症対策検討会議

座長 富山大学小児科講師

種市 尋宙



皆様の疑問や不安にお答えします

変異株の感染者が増えてきているようですが、感染対策はこれまで通りでよいのですか？

変異株(特に英国株)の特徴として…

- 感染力が強いと言われている(従来株の1.7倍)
- 日本でも成人、小児とも感染者が増加している
- 小児のみに感染力が強いわけではない
- 成人に関しては、重症度が高いという見解がある
- 小児に関しては、重症度が高い傾向はみられていない



令和3年4月14日に開催された厚生労働省の新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボードでは、子どもへの変異株の感染力について、「**従来株のウイルスと変わりはない**」、「**子どもの重症化を示す根拠はない**」、「**集団感染でない限り、学校閉鎖の議論はない**」と整理されました。また、国立感染症研究所からも同様に変異株が小児に特別なものではないと解析しています。

富山市の学校(園)では、子どもたちへの過度な対応を求めず、基本的な感染対策を重視して、行事を進めていく方針です。今後も変異株による感染者は増えることが予想されますが、子どもへの感染は、家庭内感染が最多です。子どもたちを守るため、我々大人が冷静に感染対策を実行していくことが最も効果的です。

小学校では今年度プール学習が実施されると聞いていますが、対策は大丈夫ですか？

再開されるプール学習においては、基本的に従来どおりのスタイルで授業を進めます。

学校のプールは屋外であることが多く、塩素消毒されているため、感染のリスクが低いと考えられます。いくつかの医学的研究でもそれらが示されています。また、プール学習では、何よりも事故の発生を防ぐことが最優先です。感染対策を重視し過ぎて、教師の目が行き届かないことがないよう、安全面に配慮した最低限の対策とします。学習中、教師が大きな声で指示を出すことがあったとしても、プールサイド等、児童等と距離が取れている場合は、マスクの着用は求めていません。緊急時の迅速な行動や教師の熱中症を予防することも重視しています。もちろん、活動中の子どもたちにマスクは不要です。

更衣室が密になることが心配されていますので、次のことを実行していきます。

- 1 更衣室では、私語を慎み、一定の距離をとります。
- 2 更衣室の換気は、外部から見えないような工夫をしながら、常に行います。
- 3 各学校で更衣環境は様々ですが、3密を重ねないことを基本としていきます。



検討会議では、子どもたちの日常生活を取り戻すため、子どもたちの心に目を向けた感染症対策を進めていきます

リーフレットのVOL.9 (3/15号) で示したとおり、コロナ禍における感染症対策は、子どもたちの心と体に様々な変化をもたらしました。

- ◎肥満傾向者の増加↑
- ◎給食における残食量の増加↑
- ◎メディア利用時間の増加↑
- ◎学校が楽しくないと感じる児童生徒の増加
(特に小学校低学年で増加)↑

学校(園)の現状では、ほとんどの学校(園)で、感染症対策として、正面を向き、会話をせずに「黙食」というスタイルをとっています。子どもたちの心身への影響を考えたとき、現在の給食環境は問題があると思われ、この給食環境を改善することで、子どもたちの心の健康を取り戻すことができるのではないかと考えます。

例えば、距離を取ることが可能なら、向かい合ったり、机の配置を口の字、コの字の形にしたりして食事をとることができるはずです。また、食事中に会話ができなくても音楽や放送を流すなどの工夫があれば楽しい雰囲気が作れます。

今後は、小中学校、幼稚園と情報交換をしながら、必要な感染症対策を取ったうえでの「楽しい給食の在り方」を考えていきます。



QRコードで読み取っていただくと、詳しいプレゼンテーション資料をお読みいただけます。

※これまでに発行したリーフレットは、市学校保健課、各学校(園)のHPで見ることができます。リーフレットの内容については、必要に応じて改定することもあります。

【事務局】富山市教育委員会 学校保健課(TEL 443-2136)